

島根県における学校現場での コンタクトレンズ使用状況

し みず まさ き
清 水 正 紀

キーワード：学校現場，コンタクトレンズ，眼障害，保健指導

要 旨

わが国のコンタクトレンズ（以下，CL）の使用人口は1,500万人を超え，低年齢化傾向がみられ，学童，生徒にも使用者が増加してきている。

日本眼科医会（以下，日眼医）では平成12年度から3年ごとに全国47都道府県から各々1校以上を抽出し，小学校，中学校，高等学校でのCLの使用状況について調査を行い，学校保健活動の推進に努めている。

平成15年度と平成18年度に日眼医が行った島根県での調査について，時期による違い，全国の調査結果との比較検討を行った。全国の調査結果とほぼ同様，使用者の増加傾向がみられ，地域での特徴や新しいCLの提供，ユーザーの求めるものなどが結果として表われた。目の異常とその対処法など，CLの使用を開始して間もない時期に，眼障害の防止に向けて，適切な保健指導をしていくことが必要と考えられた。

はじめに

わが国のコンタクトレンズ（以下，CL）使用者は1,500万人以上といわれ，国民の10人に1人が使用していることになる。年齢層は幅広く，近年，低年齢の使用者が増加している。一方，使用者が増えるとともに眼障害も増え，10人に1人が眼障害を生じていると報告されている¹⁾。

日本眼科医会（以下，日眼医）では平成12年度から3年ごとに小学生，中学生，高校生を対象に，学校現場でのCL使用状況についての全国調査を文部科学省の許可を得て実施している^{2,3,4)}。今回，島根県での調査について，地域での特徴や調査時期での違いなど，全国調査と比較検討したので報告する。

調査対象校

調査は筆者が校医をしている松江市立乃木小学校（以下，乃木小），松江市立湖南中学校（以下，湖南中），島根県立松江農林高等学校（以下，松

Masaki SHIMIZU

医療法人 茗山会 清水眼科

島根県眼科医会会長

連絡先：〒690-0015 松江市上乃木4丁目1番3号